

病氣の見方、治療の 考え方を一新する

R.ネシー／G.ウィリアムズ著

長谷川眞理子ほか訳

『病氣はなぜ、あるのか
—進化医学による新しい理解—』

適者生存の苛烈な闘争を勝ち抜いてきた進化の覇者、人間がなぜ、かくも簡単に病氣になるのか？

医学の進歩によって、個々の病氣の直接的な原因についてはかなり分かってきたが、そもそも病氣や老化がなぜあるのか、という根本問題に明解な説明は与えられてこなかった。

説明の鍵は、病氣それ自体を進化的に理解するところにある。——二人の高名な進化学者によるこの本は、「人はなぜ病氣になるのか」を、人類進化の長いスパンのなかに追求し、そこに発見された病氣と人間の関係についての目ざましい事実と考え方を、一般読者のために分かりやすく説く。

進化の過程をへて、人間は強くなると同時に、脆弱にもなった。最新の病氣理論は、進化のこのパラドックスをどう解くか。

ここに全貌を現した病氣の進化的アプローチは、単に知的興味をそそるだけではなく、病氣の予防、病氣の治療の決定的な方法となることを、癌、心臓病、高血圧、アレルギー、うつ病、分裂病等々の例をおしてドラマティックに提示する。

『利己的な遺伝子』で著名なドーキンズ博士が「二冊買いなさい、一冊は自分のため、もう一冊は主治医のために」と激賞した、限界突破の傑作。

四六判 本体四二〇〇円

【新曜社刊】

